

議 事 録

令和4年度 第2回北栄町地域福祉推進計画推進委員会	
日 時	令和5年3月23日(木) 13時30分～16時00分
場 所	大栄農村環境改善センター 大会議室
出席者 (委員)	長曾我部・中原・森田・有福・中井・松村・遠藤・田村・田中・山本 (行政)吉岡健康推進課長・中原教育総務課長
(事務局)	(町)小澤福祉課長・松嶋室長・菱井室長
	(社協)金山局長・秋草係長・前田

○主な意見を抜粋したもの

1:開 会	司会/進行:小澤福祉課長	説明・意見者
2:あいさつ	新しい委員の紹介後に委員長あいさつ	
3:議 事		
※これ以降の司会・進行は、長曾我部委員長		
(1)北栄町地域福祉推進計画について		
最初に計画の概略について説明後、それぞれの計画について期末実績・評価について説明し、ご意見ご質問をいただいた。		
①概略の説明 (当日資料)		事務局:菱井
○特になし		
②2022事業計画の進捗管理(実績・評価) (資料 1)		事務局:菱井 社協:前田
I-(2)町、 社協	○ボランティア連絡会とはどのようなもので、なぜ実施に至れなかったのか?	長曾我部委員長
	⇒社協にボランティアセンターがあり、そこに登録している団体や、未登録で活動いただいている団体もあるが、全体的にコロナ禍の中で活動が停滞しているたり様々な課題がある。全体的なボランティアの連絡会を立ち上げて連携を図りながら対応していきたいというもの。参集範囲の検討や実態把握に時間を要したため開催に至れなかった。	社協:前田
	事務局も色々な会議の開催に苦労しているが、一方で研修会と名の付くものでは盛り上がりを見せているものもあり、アプローチの仕方やタイミングなど検討の余地はあると感じる。また、会議や連絡会が多い印象を受けたが、参加者がほぼ同じものもあるのではないかと。一緒に出来る話であれば併せて実施したり、盛り上がりのある研修会に、会議の内容を盛り込むなどの手法もあるのでは。	長曾我部委員長
I-(2)社協	○感想になるが、福祉推進員研修会ではグループの話し合いで大変盛り上がりとても有意義であった。アンケートなども行うと思うが、このような研修会の中から意見の吸い上げなどでもできるようになればより有効かと感じた。	森田委員

	地域で研修会などを行う際、話し合いの中に愛の輪協力委員なども含めて話し合うと地域の中の困りごとの吸い上げなど行うことができていた。	遠藤委員
	自治会の中に福祉推進委員さんなど各委員さんがおられて会議など出られるが、なかなか自治会へのフィードバックが難しく、自治会長も忙しいが一緒にそういった会議に出られればスムーズに共有や次の展開ができていると思っている。	山本副委員長
I-(2)町	○福祉団体等を支援するとあるが、どのような支援を実施したのか？	山本副委員長
	⇒民生委員であれば積極的な研修や視察の機会の提供を行ったり、各種団体の周知として、町報等で活動の周知を行うなど、総合的に支援という言葉で記載させていただいている。	事務局：菱井
I-(2)町	○民生委員の活動は基本ボランティアであるが、一生懸命大変な活動をされているということもあり、以前費用面について議会の一般質問にも上がったことがあったが、支援という観点では町としてはどのように考えているか？	森田委員
	⇒民生委員については町、県社協等より活動費として実費弁償のような形で支給されているが、この額は北栄町は近隣に比して高い額となっており、新年度予算も現状維持での予算組みとなっている。	事務局：小澤課長
	他自治体の視察などを受けた際などにも、北栄町の要対協など児童への取り組みの先進性などについて聞かれることが多い。今後とも費用面のみならず活動の推進に取り組んでもらいたい。	森田委員
I-(2)町、社協	○高校生ボランティアの活動支援について、自治会の選定は高校生自身が主体的に選んだのか、町や社協が後押しをしたのか。1つの自治会は継続開催だが、同じ自治会を選ぶメリットもあるが、すそ野を広げていく必要もあるのでは？	中井委員
	⇒活動の経過も含めて説明すると、継続実施した自治会は、団地で住民相互の繋がりの薄い地域であり、サロンなど集いの場の形成について自治会からも相談を受けていた。同時期にレッツゴーほくえいツアー実行委員会から高校生ボランティアとのつながりもあり、相互を繋げることで良い具合に実現した。しかし1年では地域の集いの場は形にならず、もう一度との希望を受けて2度目の実施に至った。これらにより地域での集いの場の形成の契機になった。 サロン等集いの場のない自治会に展開して行きたい気持ちはあったが、既にある自治会でも活動の停滞が問題としてあり、活性化を目指す方向で実施してみて記載のような実績となっている。	社協：前田
	当該自治会は相互に顔の見えない実態があり、しかし課題は多くあるので繋がりは必要であり、民生委員もアプローチに苦労していた。このような取り組みが実を結んだのもとても良い実績。他の自治会でも地域の繋がりの困難な実態があると思うので町でも把握していれば共有し広げていくことができれば。	森田委員

	<p>レッツゴーほくえいツアーは運営として関わらせてもらったが、高校生ボランティアは人間的にもやはり不確定な面があり安定性はないので広い展開は難しい。だが良い起爆剤にはなっている。</p>	長曾我部委員長
II-(4) 町、社協	<p>○支え愛マップについて、実績に2自治会とあり、手上げをされた自治会だと思うが、自治会長も任期が短くなかなかマップの完成に行きつけないのが実態。災害時には必須のものなので行政からもアプローチを行って全自治会に行き渡るよう展開していただきたい。</p>	田中委員
	<p>⇒年度当初に自治会長へ情報提供を行い、作成を推進しているが、これまでに作成した自治会は20余りあるが、適切な更新がされていない実態もあるため、継続的な推進が必要だと考えている。</p>	事務局：小澤課長
	<p>自分の自治会でも以前の自治会長が作成されたものがあつたが更新がされていない実態があり、現在は苦勞して毎年更新を行っている。一番苦勞するのは個人情報への了解の問題や、更新の継続性など。役場から提供があるのは男女の増減のみなので必要な情報はそろわない。実際にやってみると更新が途絶えてしまう自治会が多いというのも納得できる。</p>	山本副委員長
II-(2) 町	<p>○教育部局と連携した情報提供について、実際の研修は2月に行っているが、こういった情報提供や学びの研修は早くに行った方がよい。こども園については4月中旬に町幼研で行う特別支援教育の会合があるので、そういった場でも情報提供ができればと考える。</p>	森田委員
	<p>⇒確認して早い段階で実施していけるよう進めて行きたい。</p>	事務局：小澤課長
II-(6) 町	<p>○世帯訪問について、突然訪問された方に深い相談はしづらいと思うので、民生委員など地域の慣れたかたの訪問の方が効果的なのでは？</p>	遠藤委員
	<p>⇒事前に民生委員などから情報を得て、民生委員でも直接訪問しづらい世帯など訪問しているが、言われるようにいきなりの訪問では課題を吸い上げづらい面がある。若い世代などはそもそも訪問に対して出てこられないこともあり、課題を抱える若い方向けのアプローチの仕方についても今後の検討となっている。</p>	事務局：松嶋
II-(7) 町	<p>○共助交通に関連して、北条のAコープの閉店などもあり、免許返納などにより交通手段のない方の買い物難民が心配される。移動販売なども考えられるが、町としてどのように対策を考えているのか？</p>	田村委員
	<p>⇒代替の交通手段としては、タクシーチケットの助成を推進している。乗り合わせ等で上手に利用いただければと考えている。また記載しているような共助交通の取組みがほかの自治会でも進んでいけばと期待している。買い物についてはご指摘のとおり事業所の実施している移動販売の利用ということも考えられる。総合的に継続して推進していきたい。</p>	事務局：小澤課長

II-(4) 町	○医療的ケア児の避難支援に係る検討を町自立支援協議会において行ったが実績に記載がないので追記いただきたい。	中井委員
II-(2) 町	○情報提供の充実について、障害福祉サービスの研修と事業所見学を行ったとのことだがその内容は？ また、本来、こども園・学校・公的機関の情報連携は当たり前のことであり、そこから先の親御さんなどへの情報提供の充実を行っていただければと思う。	
	⇒一つ目の町自立支援協議会による医療的ケア児等の避難支援に係る研修・検討は記載からもれていたもので追記したい。(資料追記) 二つ目の学校等と障がい福祉サービスに関する研修・見学については、まず障害児に係る相談支援事業所の職員を講師に、放課後等デイサービスや障がい福祉サービス全般についての研修を行い、町内の放課後等デイサービス事業所の見学を行った。ご指摘のとおり学校等と関係機関の情報連携は本来基本であるが、実際に児童・家族に関わる保育士・教諭や事業所の支援員との連携等が十分でない実態があり、障がい福祉サービス利用の流れを研修し、事業所でどんな支援を行っているのかを知ることで、学校等からサービスを必要とする児童・家族への適切な情報提供の充実を推進した。	事務局：菱井
③重層的支援体制整備事業実施計画の進捗管理 (資料 2)		事務局：松嶋
全般	○この計画については誰がどんな係で動いているのか見えづらい。この計画に係る役場の体制図としてはどのようになっているのか。	中井委員
	イメージとしては縦割りな行政に横ぐしを刺す事業ととらえているが、松嶋さん以外の様子が見えないのは感じる。大切な事業であるし高いスキルが必要なのもわかるが今後も体制が維持できるのかということは感じている。	長曾我部委員長
	⇒基本的な各分野の困りごとは、高齢者は包括支援センター、障がいは障がい担当、困窮は困窮担当、子育ては教育総務課で対応する。重層事業においても態勢はそのまま、基本的に分野ごとに対応するが、一つの世帯で多くの課題を抱えていたり困難な事例などの場合には、重層担当で集約し、関係分野で協力して対応するのが相談支援の業務となっている。 また、困っているけど困り感がない方、周囲は困難を把握しているが相談につながらない方へはアウトリーチの事業などで対応し、必要な部署につなげている。 個々の分野は個別に対応するが、複合的であったり分野を越えていかなければ対応できない、難解で法律等の専門家が必要な場合などには重層担当も一緒に入って対応を行っているという体制。	事務局：松嶋
	役場の配置体制についてはなんとも言えないが、一人でがんばっているんだと感じた。アウトリーチについても、見えているように見えていない、支援の届いていない人へアプローチが始まったというのを感じた。	中井委員
	体制に関しては担当からも言いづらいが、北栄町の場合は各分野が	事務局：松嶋

	直営で相談センターを置いているので、多少担当から外れた部分でもこれまでも対応してきているという下地はある。	
・地域づくり事業 ・アウトリーチ等を通じた継続的支援事業	○以前、県庁で支援につながっていない方に関する検討会があり、知的障害のある方が地域の中で暮らす困難さの事例発表を行った。その中では事業所の相談支援などを頼りながら、つながりにくい福祉となんとかつながっている実態があった。個々の状況も日々変わっており早めに対応しないと手遅れとなることもある。アウトリーチの事業による把握も大切であるし、隣近所や自治会への地域による見守りなど、地域のネットワークの大切さも感じている。	中井委員
・アウトリーチ等を通じた継続的支援事業	○的確な相談窓口につなげることが大切。また、困っている方へのアプローチの際にも、押し付けにならないよう、全て支援者側の判断で決めるのではなく本人が出来ていたことを奪ってしまわない配慮も必要かと感じる。	松村委員
	自分も近いことを感じていて、地域の共助交通を推進する中で、どこに行っても何をかうかが近所の人にわかってしまう点などは、浸透しづらいハードルとなっていると感じる。支援者・被支援者も個々に感じ方が異なるという前提で、密なコミュニケーションで対応していくしかないかを感じる。	長曾我部委員長
④成年後見制度利用促進計画の進捗管理（資料 3）		事務局：菱井
	※時間の関係上質疑は最小限とし、必要な意見等は「ご意見記入用紙」で提出いただくこととした。	
	全体を通して、改めてご意見等あれば。	長曾我部委員長
④成年後見	○未来ノートとエンディングノートの違いとその活用法について。	遠藤委員
	⇒未来ノートはエンディングノートの名称を北栄町版にしたもので、意味は同じ。本人の意思決定をサポートするもので、高齢者等がまだ意思表示の出来るうちに自分の意志や希望をノートに記入しておき、後見制度の利用が必要となった際にノートを元に本人の意思決定をサポートしていくものとなっている。	事務局：菱井
	鳥取県手をつなぐ育成会では、未来ノートと同様のものとして、安心サポートファイルという知的障害を持つ子と親の、身の回りのことを記載していったその後のサポートに活用していく資料がある。今後、後見制度等の推進や周知のなかに盛り込んでいければ。	中井委員
4：連絡事項		
(1) 次回委員会の開催について		事務局：菱井
5月下旬を予定。近くなったら通知を行う。		
5：その他		事務局：菱井
特になし。		
6：閉会		
社協、金山局長の挨拶で終了。		

○終了後の「ご意見記入用紙」によるご意見等

ご意見記入用紙		
③重層 ・包括的相談 支援事業	○相談員のスキルが求められると思うが、人材育成支援などの必要性や現状はどのようなものかと感じた。 ○今後、相談員の負担を軽減する体制も必要ではないかと感じた。相談員のメンタルヘルスケアなど必要に応じてアウトソーシングされては。	長曾我部委員長
その他	○初めて委員会に参加し、事業に係る年間行事、研修会、会合の多さなどに驚いた。今後参加しながら、区長や地域住民の立場として福祉の推進に係る意見・感想を伝えていきたい。	有福委員